

地域再生プロジェクトの実施結果調書

市町村名	夕張市
------	-----

1 地域再生プロジェクト実施結果（プロジェクト全体）

（ 3年計画のうち 3年目）

実施主体	市町村名：夕張市 民間団体名：ゆうばり再生市民会議		計 1 市町村 1 団体
プロジェクト名	地域支えあい推進プロジェクト		格差の分野：社会構造の格差
地域重点プロジェクトとの関連性	該当	地域重点プロジェクト名 「炭鉱（やま）の記憶」で地域づくり	主な取組 多様な主体の参画によるまち力・市民力の向上
	非該当		多様な主体が地域づくりに参画するシステムの構築
地域の課題及び地域再生プロジェクトの目標	<p>地域の課題</p> <p>本市は、高齢者比率が40%を超え全道一の高齢化のマチとなっている。今後想定される一層の人口減少及び高齢化の更なる進行への対応が必要となってくるが、本市が法に基づく準用再建団体ということもあり、行政単独の対応は困難であり、地域一体となった取り組みが必要とされる。</p> <p>プロジェクトの目標</p> <p>多様な主体が地域づくりに参画するシステムの構築を目標とする地域重点プロジェクトの取り組みに鑑み、高齢化率全道一旦つ準用再建団体である本市においても、高齢者が生きがいをもって生活できるよう、地域全体で支えあうよう官民の協働体制を構築することを目標とする。</p>		
取組の成果	<p>住民等の評価</p> <p>本プロジェクトの主旨は高齢者を含む市民全体で地域を支えあうものであり、本プロジェクトの推進と合わせ、地域支えあいのための市民の意識が昨年にも増して醸成されてきたと考えられる。</p> <p>本年度は新たな事業はなかったが、昨年度から実施している「除雪機貸与事業」ではコミュニティ全体で地域の除雪体制を構築するシステムの基盤づくりが引き続き行われている。また、昨年度から本格的に実施している「ふれあいサロン」でも、地域のお年寄りの相談対応や住民同士の交流の場として地域が自主的にサロンを運営することにより、住民にも好評を得ているところである。</p>		
	<p>計画に対する達成度</p> <p>取り組みとして今後も広めていく必要があるものもあるが、ほぼ計画どおりに推進できたと考える</p>		
	具体的な効果	<p>行政と協働し地域の支えあいに取り組む市民団体等の活動が昨年度にも増して活発化している。</p> <p>具体的には、除雪や清掃・草刈り等の環境美化ボランティア運動の企画・運営及び積極的な参加や、高齢者主体の地域の集いへの参加などが挙げられる。</p> <p>また、市の財政破綻により連絡所を廃止したことに伴い昨年度から本格実施した「ふれあいサロン」は地域住民交流の拠点として位置づけられている。</p>	<p>交付金支援期間終了時の成果目標に対する現時点での達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政との協働に取り組む市民活動団体 H21 末目標 8 団体 H21 末 6 団体 ・高齢者移送サービス運転協力者 H21 末目標 25 名 H21 末 20 名 ・除雪ボランティア等の参加者 H21 末目標 50 名 H21 末 100 名

プロジェクト推進上
の課題・問題点

課題点等

・地域を支えあう意識を市民の一部ではなく幅広く浸透させること及びこの意識が財政破綻を契機とした一過性のものでなく永く継続したものとなるような仕組みづくりが課題となる。

・また、高齢者の社会参画を促すため公共交通の重要度が増しているが、財政破綻等の要因による人口減少のため、その維持継続が今後問題となってくるところである。

課題を踏まえた今後の展開

・当市は、財政再建計画を策定する上で事務事業の抜本的な見直しを行なったものであり、そのうえでも市民と行政の協働体制を今後推進させることが必要不可欠であると考ええる。

・高齢者が生きがいをもって社会参画ができ、住民相互が地域を支えあう活動を今後とも継続的なものとするため、一つの方法としてボランティアを有償にすることを検討するなど、財政再建団体である当市として今後国・道と連携しながら様々な制度を活用した中で取り組んでいくべきであると考ええる。

No	事業名 実施主体名	実施期間	年次	事業費	財 源 内 訳						交付金 要望額	
					国庫補 助金等	道補助 金 等	市町村補助等		市町村 自己財源	民間等 自己財源		その他
							補助金等	委託費				
7	市営住宅再編調査事業 夕張市	H19) H20	全体計画	2,887					2,887			2,840
			初年度(H19)	941					941			940
			2年度目(H20)	1,946					1,946			1,900
			3年度目()									
8	除雪機貸与事業 夕張市	H20) H21	全体計画	2,500							2,500	
			初年度()									
			2年度目(H20)	2,500							2,500	
			3年度目(H21)									
9	ふれあいサロン運営 事業 夕張市	H20) H21	全体計画	2,400							2,400	
			初年度()									
			2年度目(H20)	1,200							1,200	
			3年度目(H21)	1,200							1,200	
計	事業数[9]		全体計画	91,824					82,288		9,536	19,000
			初年度(H19)	31,056					29,491		1,565	10,000
			2年度目(H20)	33,579					28,340		5,239	6,000
			3年度目(H21)	27,189					24,457		2,732	3,000

- 注 1 プロジェクトを構成する全事業の実績について記載すること。
2 「事業費」、「財源内訳」及び「交付金要望額」欄は実績額又は予定額を記載すること。
3 その他記載に当たっては、別記第2号様式に準じること。

(2) 実施内容について

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
1	シルバー専用住宅管理事業	高齢者向け専用住宅の冬期除雪管理を含めた管理運営を行う。	初年度(H19)	本市清水沢清陵地区に設置された3棟計42戸のシルバー専用住宅の管理運営及び定期的な除雪作業を行った。	・住宅居住者の定期的な安否確認が可能となった。 ・清掃・除雪等住宅の維持が行なうことができ、居住する高齢者への配慮を行なうことができた。	高齢化率全道一である本市としては、高齢者向け住宅のニーズが絶えることはないため、今後も本事業は継続の必要がある。
			2年度目(H20)	本市清水沢清陵地区に設置された3棟計42戸のシルバー専用住宅の管理運営及び定期的な除雪作業を行った。	・住宅居住者の定期的な安否確認が可能となった。 ・清掃・除雪等住宅の維持が行なうことができ、居住する高齢者への配慮を行なうことができた。	高齢化率全道一である本市としては、高齢者向け住宅のニーズが絶えることはないため、次年度以降も本事業は継続の必要がある。
			3年度目(H21)	本市清水沢清陵地区に設置された3棟計42戸のシルバー専用住宅の管理運営及び定期的な除雪作業を行った。	・住宅居住者の定期的な安否確認が可能となった。 ・清掃・除雪等住宅の維持が行なうことができ、居住する高齢者への配慮を行なうことができた。	高齢化率全道一である本市としては、高齢者向け住宅のニーズが絶えることはないため、交付金支援期間終了後も本事業は継続の必要がある。
2	緊急通報システム運用事業	独居老人宅へ緊急通報装置を給付し、緊急時に消防署に連絡を行えるよう措置する。	初年度(H19)	緊急通報装置については、本年度12件の新規設置及び保守委託を行なった。また、本システムにより年間257件の受信があった。	・高齢者・障がい者の非常時における連絡体制が整備されてきた。	高齢化率が高く居住地が集約化されていない本市にとって、緊急時の連絡体制を一層整備する必要あり。
			2年度目(H20)	緊急通報装置については、本年度14件の新規設置及び10件の保守委託を行なった。また、本システムにより年間221件の受信があった。	・高齢者・障がい者の非常時における連絡体制が整備されてきた。	高齢化率が年々上昇し且つ居住地が集約化されていない本市にとって、緊急時の連絡体制を今後とも整備する必要あり。
			3年度目(H21)	緊急通報装置については、本年度15件の新規設置及び12件の保守委託を行なった。また、本システムにより年間246件の受信があった。	・高齢者・障がい者の非常時における連絡体制が整備されてきた。	高齢化率が年々上昇し且つ居住地が集約化されていない本市にとって、緊急時の連絡体制を交付金支援期間終了後も整備する必要があり。
3	高齢者能力活用事業	自力で除雪が困難な独居老人宅の除雪を元気な高齢者が行う相互扶助の仕組みづくりを行う。	初年度(H19)	一定の条件(65才以上・非課税・公共料金滞納なし)を満たした世帯に高齢者ヘルパーを派遣し除雪の担い手となってもらった。 (具体的除雪実施内容) ・12月 実施世帯 197件 実施回数 237回 ・1月 実施世帯 239件 実施回数 1,472回 ・2月 実施世帯 274件 実施回数 1,376回 ・3月 実施世帯 29件 実施回数 34回	・一般の除雪ボランティアの増加もあり、本事業としては除雪ヘルパーの派遣が当初見込みより減ることとなったが、市全体として考えると、本事業実施により高齢者等の生活の手助けとなった。	高齢者の相互扶助の仕組みは、高齢化率が高い本市にとって、除雪作業においても欠くべからざるものとなる。

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
			2年度目(H20)	<p>一定の条件(65才以上・非課税・公共料金滞納なし)を満たした世帯に高齢者ヘルパーを派遣し除雪の担い手となってもらった。 (具体的除雪実施内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月 実施世帯 124 世帯 実施回数 676 回 ・1月 実施世帯 124 世帯 実施回数 702 回 ・2月 実施世帯 129 世帯 実施回数 993 回 <p>計 実施世帯 377 世帯 実施回数 2,371 回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業実施により、本プロジェクトの主旨である高齢者どおしが支えあうまちづくりの体制が構築できた。 	<p>高齢者の相互扶助の仕組みは、高齢化率が高い本市にとって欠くべからざるものであり、今後とも一層の推進が望まれる。</p>
			3年度目(H21)	<p>一定の条件(65才以上・非課税・公共料金滞納なし)を満たした世帯に高齢者ヘルパーを派遣し除雪の担い手となってもらった。 (具体的除雪実施内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月 実施世帯 108 世帯 実施回数 259 回 ・1月 実施世帯 126 世帯 実施回数 1,643 回 ・2月 実施世帯 127 世帯 実施回数 782 回 ・3月 実施世帯 110 世帯 実施回数 349 回 <p>計 実施世帯 471 世帯 実施回数 3,033 回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業実施により、本プロジェクトの主旨である高齢者どおしが支えあうまちづくりの体制が構築できた。 	<p>高齢者の相互扶助の仕組みは、高齢化率が高い本市にとって欠くべからざるものであり、交付金支援期間終了後も一層の推進が望まれる。</p>
4	高齢者公共交通利用負担軽減事業	交通弱者である高齢者の引きこもりを防止し地域社会へ参画を即す一助とするため、公共交通使用の際の負担軽減措置を行う。	初年度(H19)	<p>1回あたり300円の自己負担により敬老乗車証を発行。 (具体的利用者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 8月 2,303人 9月 2,060人 10月 2,295人 11月 1,981人 12月 1,791人 1月 1,437人 2月 1,486人 3月 1,900人 <p>計 15,253人</p> <p>4月～7月は集計方法が異なり利用者データなし。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関に頼らざるをえない高齢者に配慮を行なうことができた。 【課題】 ・300円の自己負担としたことから当初の想定より利用者が減少する結果となった。 【要因】 ・自己負担増による乗り控え ・従来対照となった200円～300円の運賃の人は今回対照外 	<p>自家用車を持たない高齢者の移動手段を確保するため、本事業は必要とされるが、本市財政再建とも併せ総合的に検討。</p>

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
			2年度目(H20)	1回あたり300円の自己負担により敬老乗車証を発行。(公共交通機関に頼らざるを得ない高齢者に配慮を行った。) (具体的利用者数) 4月 1,718人 5月 1,622人 6月 1,654人 7月 1,559人 8月 1,572人 9月 1,449人 10月 1,592人 11月 1,350人 12月 1,353人 1月 1,144人 2月 1,141人 3月 1,192人 計 17,346人	【効果】 ・公共交通機関に頼らざるを得ない高齢者に配慮を行なうことができた。 【課題】 ・自家用車を持たない高齢者の移動手段の確保、及び社会参画の一助として本事業は必要と考えるが、人口減少が見込まれるなか、今後の市内交通体系の維持をどう図るかが課題となる。	市内交通体系の維持継続を本市財政再生(財政再生)と併せ総合的に検討していく。
			3年度目(H21)	1回あたり300円の自己負担により敬老乗車証を発行。(公共交通機関に頼らざるを得ない高齢者に配慮を行った。) (具体的利用者数) 4月 1,260人 5月 1,219人 6月 1,317人 7月 1,268人 8月 1,334人 9月 1,398人 10月 1,086人 11月 924人 12月 1,044人 1月 743人 2月 794人 3月 966人 計 13,353人	【効果】 ・公共交通機関に頼らざるを得ない高齢者に配慮を行なうことができた。 【課題】 ・自家用車を持たない高齢者の移動手段の確保、及び社会参画の一助として本事業は必要と考えるが、人口減少が見込まれるなか、今後の市内交通体系の維持をどう図るかが課題となる。	
5	高齢者声かけ運動事業	独居老人の事故・孤独死防止のため地域住民の連携による声かけ運動を実施する。	初年度(H19)	地域住民、民生委員等ができる範囲のなかで、近所に声をかけてまわる活動を行なっている。	・独居老人宅へ直接伺うことと同時に、集える場所についても重要視されており、地域拠点ごとに『ふれあいサロン』の開設実験により、独居老人の引きこもり防止等に効果があった。	高齢者・障がい者の引きこもり対策として、移送サービスと併せて今後も継続が必要。
			2年度目(H20)	地域住民、民生委員等ができる範囲のなかで、近所に声をかけてまわる活動を行なっている。	・必要なマンパワーの確保、住民意識の継続が今後の課題とされる。	
			3年度目(H21)	地域住民、民生委員等ができる範囲のなかで、近所に声をかけてまわる活動を行なっている。	・必要なマンパワーの確保、住民意識の継続が今後の課題とされる。	
6	除雪ボランティア事業	民間ボランティアとの協働による独居老人宅等への除雪の取組みを広げる。	初年度(H19)	スコップ、スノーダンプ等の除雪用具を購入し、除雪ボランティアの受入れ態勢を整えた。 (当該用具を用いた除雪ボランティア) ・H20年2月16日 参加者 80名 ・H20年3月15日 参加者 15名	【効果】 ・除雪ボランティアが昨シーズンより増加した。 ・高校生、農協青年部等自主的活動も多く見られた。 ・高齢者等が多く除雪が行き届かない地域を重点に除雪を行なうことが可能となった。 【課題】 ・今後、除雪用具の貸出しの認知度を上げていく必要性あり。	高齢化が進む本市において、除雪ボランティアの必要性が今後増すことが考えられ、ニーズとシーズを上手にマッチングさせることが必要。

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
			2年度目(H20)	<p>昨年度整備したスコップ、スノーダンプ等の除雪用具を用い、除雪ボランティアとの共同で市内施設・住居の除雪を行った。</p> <p>(主な除雪ボランティア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21年1月24日 参加者 230名 ・H21年2月5日 参加者 28名 ・H21年2月7日 参加者 30名 ・H21年3月7日 参加者 82名 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度にも増して多くの除雪ボランティアの参加があった。 ・高齢者等が多く除雪が行き届かない地域の除雪も実施でき住民に好評を得た。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの有償化など事業を継続する方法について検討の必要あり。 	<p>高齢化が進む本市において、除雪ボランティアの必要性が今後増すことが考えられ、ニーズとシーズを上手にマッチングさせることが必要。</p>
			3年度目(H21)	<p>昨年度整備したスコップ、スノーダンプ等の除雪用具を用い、除雪ボランティアとの共同で市内施設・住居の除雪を行った。</p>	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度にも増して多くの除雪ボランティアの参加があった。 ・高齢者等が多く除雪が行き届かない地域の除雪も実施でき住民に好評を得た。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの有償化など事業を継続する方法について検討の必要あり。 	<p>高齢化が進む本市において、除雪ボランティアの必要性が今後増すことが考えられるため、支援期間終了後もニーズとシーズを上手にマッチングさせることが必要。</p>

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
7	市営住宅再編調査事業	地域コミュニティの再生等を目的に市営住宅の集約化に向けた検討を進める。	初年度(H19)	<p>市営住宅の集約化に向けた検討材料として、住宅入居状況のデータ整理を行なった。</p> <p>(具体的作業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営住宅各戸修繕台帳のデータ整理 ・市営住宅・道営住宅位置図作成 ・入居者からの申告データと住宅管理データとの照合 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本データをもとに住宅の集約化に向けた検討材料の入手ができた。 	<p>住宅集約化に向けたシミュレーション及び住宅移転意向調査が必要とされる。</p>

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
			2年度目(H20)	<p>市営住宅の集約化に向けた検討材料として、居住者に生活状況・住替意向などのアンケートを行いデータをまとめた。</p> <p>(具体的作業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住者へのアンケート作成、配布、回収 (配布数 1,048 回収数 742 回収率 70.8%) ・データの集計、分析 ・ホームページ等への公表 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本データをより住宅の集約化に向けた今後の検討課題が明確となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅再編に向けた具体的事業計画を、本年度策定予定の財政再生計画と併せ検討していく必要がある。 	住宅再編に向けた具体的事業計画の策定及び実施。
			3年度目()			
			初年度()			
8	除雪機貸与事業	自力で除雪が困難な箇所を地域全体で支えあうシステムを構築するため、除雪機を購入し、地域へ貸与を行う。	2年度目(H20)	南北に細長い夕張市の事情を勘案し、本庁及び南支所に各2台の除雪機を設置した。	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除雪機を購入により、地域コミュニティへの除雪機貸与が可能となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度については、記録的な暖冬及び住民への周知不足から、整備した除雪機が地域に活かされなかったため、次年度において一層の啓発宣伝が必要。 	市社会福祉協議会との連携など除雪機貸与の回転率を上げるための方法を検討。
			3年度目(H21)	南北に細長い夕張市の事情を勘案し、本庁及び南支所に各2台の除雪機を設置した。	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除雪機を購入により、地域コミュニティへの除雪機貸与が可能となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度については、記録的な暖冬及び住民への周知不足から、整備した除雪機が地域に活かされなかったため、次年度において一層の啓発宣伝が必要。 	市社会福祉協議会との連携など除雪機貸与の回転率を上げるための方法を交付金支援期間終了後も検討していく必要がある。
			初年度()			
9	ふれあいサロン運営事業	地域の相談対応及び住民同士の相互交流の場として、廃止した市連絡所等を活用し、ふれあいサロンの運営を行う。	2年度目(H20)	夕張市内4か所(若菜、清水沢、沼ノ沢、紅葉山)においてふれあいサロンを週2回のペースで開設。	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各サロンにおいて、お年寄り向けの相談業務を行うほか、それぞれの地域の特色を活かした取り組みを実施し、住民からも好評を得ている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は地域住民からの継続要望も多く、事業の維持継続のための方法(財源、効率的運用方法)の検討が望まれる。 	本事業を維持継続するため一層の効率化が図れないか検討するほか、財源についても諸制度の研究が必要。

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
			3年度目(H21)	夕張市内4か所(若菜、清水沢、沼ノ沢、紅葉山)においてふれあいサロンを週2回のペースで開設。	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各サロンにおいて、お年寄り向けの相談業務を行うほか、それぞれの地域の特色を活かした取り組みを実施し、住民からも好評を得ている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業は地域住民からの継続要望も多く、事業の維持継続のための方法(財源、効率的運用方法)の検討が望まれる。 	<p>交付金支援期間終了後も本事業を維持継続するため一層の効率化が図れないか検討するほか、財源についても諸制度の研究が必要。</p>